

○委員長（井上宜久）

議案第２６号 平成２７年度開成町下水道事業特別会計予算を議題とします。

下水道事業特別会計の歳入歳出予算について、詳細質疑を行います。質疑をどうぞ。  
高橋委員。

○２番（高橋久志）

２番、高橋です。

説明資料の資料２、上下水道課、これに関連して質問させていただきたいと思います。  
この表は、平成２７年度下水道工事箇所図（上下水道課）が出されて、下水道事業特別会計。平成２７年度においては、ここに書かれております整備延長が７２７．３メートル、整備面積が２．５０ヘクタール、舗装面積が４，２６６。そこで質問したいのは、舗装面積というのは、どう捉えればいいのかというのの一つ。それから、整備面積との関係で、平成２７年度における下水道の普及率にこれらの工事が影響してくるわけですから、この辺、予算策定において、今後の下水道の普及もしなくてはいけない課題もあるわけですから、普及率をどれぐらい見込んでいるのか教えていただきたい。

○委員長（井上宜久）

上下水道課主幹。

○上下水道課主幹（井上 昇）

上下水道課、井上です。

舗装面積ですが、こちらは２６年度に下水道の管渠を敷設したところを主に仮復旧で、今、舗装のほうが仮の状態です。管渠を入れるときに道路を掘ってございまして、自然沈下等かかりますので、１年後に舗装を全面できれいにやっていくものでございまして、面積につきましては、そちらの道路の全幅を図りまして、延長を掛けて面積とさせていただきます。

また、２点目の整備なので、２．５ヘクタール足してきますので、認可上でいきますと認可面積が３０１ヘクタールございまして、７９％ほどになってございまして、全体計画でいきますと６２％ほどになってきます。

以上です。

○委員長（井上宜久）

高橋委員。

○２番（高橋久志）

今、説明でちょっとわからなかったのですが、私の質問は、これらの２７年度の事業を遂行したときに、いろいろ言われております下水道の普及率あたりが多少、２．５ヘクタールですから少ないのかなと。前年より上回るの少ないのかなと感じているわけですが、２．５ヘクタールの整備面積をすると、予定としてはですよ、２７年度末には下水道の普及率がどのぐらいになるかという質問をしたのですが、今の話では６０何％云々と言っていますけれども、これが普及率として捉えていいのですか。

○委員長（井上宜久）

上下水道課主幹。

○上下水道課主幹（井上 昇）

上下水道課、井上です。

先ほどのパーセンテージは整備面積ですね、整備率になります。普及率になりますと、ちょっと推定にはなってしまいますが、74.9%を予定してございます。

○委員長（井上宜久）

ほかに質疑はありますか。

菊川委員。

○1番（菊川敬人）

1番、菊川です。下水道使用料のことで伺います。ページ数は249ページになると思います。1億8,946万5,000円を計上しています。これは、先日の5号補正で某企業が1万5,000立米リサイクルすることによって500万減額するというものでありました。今回、今、同僚議員から話がありましたように、下水道が計画されています。単純に、この差額分が今回の下水道の普及分で上乗せされるということでしょうか。約600万ぐらいになるのでしょうかね、この分が上乗せという形で計上されているのでしょうか。

○委員長（井上宜久）

上下水道課主幹。

○上下水道課主幹（石井直樹）

上下水道課の石井です。お願いいたします。

補正のほうでマイナスの使用料ということで減額させていただきました。その後、当初予算につきましても、件数の伸びは145から50を大体、ここ1年と昨年1年間の伸びを見込んで、おおむね、あと多少の人数の件数を増員しているのですけれども、金額的には当初予算につきましても補正予算で掲げさせていただいた金額と大きく差はないというところなのですけれども、こちらにつきましても、企業様の努力とか個人様の節水といった部分も反映した中で、この金額を提示させていただいております。

○委員長（井上宜久）

ほかに質疑はありますか。

山田委員。

○8番（山田貴弘）

8番、山田貴弘です。

255ページ、公共下水道事業費の、これ国庫補助対象事業工事費なのか単独なのかということで、考え方をちょっと聞きたいのですが。全体の整備面積というのは、調整区域を含めた中でフレームを増やしたという経緯がありますが、今回、一部、調整区域に配管布設という部分を工事費の中で計上されているとは思いますが。そのような中で、本来であれば市街化調整区域よりも市街化を優先的という考え方の中で、市街化の部分は100%とはいっていない中で、現況が今、どんなような状況なのか。ある程度、例えば、整備をしなくてはいけないのが20%残っているのだよという、でも、そこは

ちょっと高額になるとか、いろいろな事情の中で面積が伸びないよとか、いろいろな事情があられると思います。やはり、この転換期の中で調整区域に整備を進めたというのは、それなりの理由があると思いますので、そこら辺の説明をされたいと思います。

○委員長（井上宜久）

上下水道課主幹。

○上下水道課主幹（井上 昇）

上下水道課、井上です。

今、議員のおっしゃられたとおり、市街化区域から調整区域に下水道がこれから延びようとしております。そういった中で、開成町の下水道、市街化区域で残っている大きな要因のところは、都市計画道路、駅前通り線も含めて、都市計画道路に下水道を整備するという計画のエリアが、どうしても都市計画道路が進まない関係で大きく後退してございます。

あと、もう一カ所が、これから今年度も来年度も進めるのですが、町道１１９といひまして、酒匂川沿いの土手道路、あの周辺が高低差がかなりあるといったところで、なかなか事業費が高額になってございます。ただ、今年度、進めておりますとおり合同庁舎の建てかえ等も見込まれているということで、今、整備は進めておりますし、来年度も、その周辺の地域住宅へお迎えに行くということで予算化はしてございます。

また、調整区域のほうに整備を進めるに当たりましては、やはり下水道も使用料を取るという意味では、大型の建物、集合的な施設があるところをメインにお迎えに行きたいと考えてございまして、牛島エリアには病院さんもございますので、そちらへ行きたいと。あと幼稚園がありますので、そちらも早目に迎えに行きたいということで整備は進めてございます。

○委員長（井上宜久）

山田委員。

○８番（山田貴弘）

８番、山田貴弘です。実情はわかりました。気になるのは、市街化区域の部分での整備率で構わないので、そのところがわかれば示してもらいたいという。もしわからなければ後でも構わないですけども、ちょっと気になる部分なので、よろしくお願いします。

○委員長（井上宜久）

上下水道課主幹。

○上下水道課主幹（井上 昇）

市街化区域の整備面積ですが、ちょっとあらかたになってしまいますが、約８２％を整備してございます。

○委員長（井上宜久）

高橋委員。

○２番（高橋久志）

２番、高橋です。

総体的な話になるかと思うのですが、下水道事業特別会計は前年より３．４％の伸び率で２，１３５万円を増額見込み。この要因は流域下水道の事業にかかわるものだと言われておりますけれども、流域下水道の何がこれを押し上げているのか、教えていただきたい。

○委員長（井上宜久）

上下水道課長。

○上下水道課長（熊澤勝己）

高橋委員の質問にお答えします。

予算書でいいますと、流域下水道の負担金が昨年度に比べて大きく伸びているという部分があります。この中で流域下水道の負担金につきましては、建設費負担金と維持管理の負担金の２種類になります。ともに伸びております。

まず、建設費負担金に関しましては、下水道幹線であります小田原箱根幹線の整備が今年度から本格的に延びていくという部分と、あと施設の建物の耐震化工事というものが本年度から始まっていくという部分で建設費負担金が伸びております。

維持管理負担金につきましては、やはり各処理施設の機器の長寿命化という部分で、来年度、２７年度からの工事費が増えております。要因としましては、その三つの要因で負担金のほうが伸びております。

○委員長（井上宜久）

そのほかに質疑はありますか。

（「なし」という者多数）

○委員長（井上宜久）

では、以上で議案第２６号 平成２７年度開成町下水道事業特別会計予算についての質疑を終了します。